

冠疾患診療の New Trend

—新しい冠疾患診断治療機器の可能性とその問題点—

笹栗 志朗 高知大学医学部呼吸循環再生外科学

歴史には転換期が必ず存在する。かつて Rene Favaloro 先生が⁸ aorto-coronary bypass を考案し、それまでの Vineberg の手術に取って代わったのは 1968 年のことであり、以来 40 年間心筋虚血に対する golden standard の治療法として選択されてきている。今われわれが経験する日常診療の中においても、新しい概念に基づくさまざまな治療法、診療機器が洪水のように紹介され、未知、未経験ながらもその流れに追随していかなければならない場面が少なからずある。冠動脈バイパス手術もいつの間にか off pump bypass 術が主流となって来つつあるし、drug-eluting stent の出現は従来の外科手術の役割を変更させつつあるのかもしれない。

しかしながら、コマーシャルベースで数多く紹介される最新の診療機器や治療手段が、必ずしも現時点での問題点を 100% 解決することは稀で、飛びついてみて初めて問題点が明らかとなり、後々の反省材料となることはよく経験することである。

本特集号は、「冠疾患診療の New Trend—新しい冠疾患診断治療機器の可能性とその問題点—」のタイトルで最新の冠疾患治療機器の紹介を、最も経験をもたれている先生方に執筆していただいた。このテーマを企画した主眼は、果たして世間を席卷している新しい診療機器がいまままでの治療法よりも真に優れているのか、また、その問題点は何か、将来改良され生き残っていくものなのか、それとも廃れていくものなのか、何らか手がかりを論じていただくことだ。各執筆者には十分に今回の企画の趣旨を理解していただき、新しい診療機器の可能性と問題点を論じていただいているように思う。

医療の安全性、経済性が厳しく要求される中で、よりよい医療を発展させるためには、新たな治療法を選択する challenging な精神と、その一方では一歩退いて流れを静観する conservative な強さを各医療人は兼ね備えていなければならないように思う。